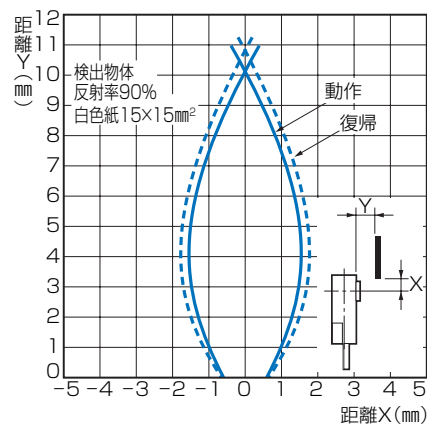


特性データの読み方

検出位置特性	繰り返し検出位置特性
形EE-SX770の特性例	形EE-SX770の特性例 Vcc=24V 繰り返し数: 20 Ta=25℃
検出物体のエッジがどの位置に来たときにセンサが応答するかを示すものです。	センサが応答するときの、検出物体のエッジ位置のバラツキを示すものです。検出物体の位置決め精度の目安となります。
受光出力余裕度－距離特性	平行移動特性
形EE-SPW311/411の特性例	形EE-SPW311/411の特性例
・受光出力余裕度は、感度を最大設定とした場合の数値で示します。 ・上記は定格検出距離が1mの機種の場合です。定格検出距離において受光出力余裕度は約10倍であることが読み取れます。	・透過形の場合：投光器の位置を固定したときの、受光器の検出限界位置を示します。 ・回帰反射形の場合：センサの位置を固定したときの、回帰反射板の検出限界位置を示します。 ・複数の透過形を設置する場合、相互干渉をさせないために図示の1.5倍の領域が必要です。

動作領域特性

形EE-SPY301、形EE-SPY401の特性例



・標準検出物体を光軸に垂直に移動させたときの検出開始位置を示します。図中で、右側に湾曲したグラフが、検出物体を右側から移動させたときのものです。

注. これは標準検出物体に対する値で、検出物体が変われば動作領域、検出距離も変わります。